

平成州紙



おりおりの記

## お一人様 昼時 銀座

JPモルガン証券  
シニアアドバイザー

森口 隆宏

ランチタイムを一人で過ごす時間が増えている。黄昏気分の始まりでもある。

若手スタッフはデスクで画面相手にテイクアウトランチだが、こちらは一人で銀座界隈を徘徊となる。夜の銀座は遠くなりにけりだが、昼の銀座に気後れはない。

32階のオフィスから外の気温、風などを探る。そして徐にラバー底の靴に履き替え地上に出る。一人で昼食は日々作戦が必要だ。どこも混んでいる。行列は避けたい。穴場を探す。銀座の小洒落た割烹で気の利いた女将が昼食を出す店が隠れ家的に存在する。夜の残り物が中心なのか安く提供できるのだろう。

この辺り独り者が気楽に使えるレストランが少ない。一人だとなんとなく気まずさが漂う。サンフランシスコなどはシングル客が気楽に過ごせるようテーブル配置などよく気配りされている。日本もシングル高齢者などにもっとフレンドリーな場所があっている。

散歩コースは有楽町—銀座並木通り4丁目からソニー通りに周り7丁目あたりからレンガ通りを戻る。所要1時間、4～5千歩。途中の並木通りと花椿通りは気分が華やぐ。ただし裏通りは前夜の戦いの残滓が漂っている。

傘を持たないのが通のスタイル。地下街、ビル内抜け道とINZ街などフル活用する。寒いときは

マフラー、コートは遠慮なく身に纏う。

昨今ご多分にもれず銀座にも多くの外国人観光客がひしめいている。スマホ情報を駆使、行

きつけの蕎麦屋にも行列を作ってくれる。人のことは言えない。私も先日ニューヨークでスマホを頼りに一人で美味しいラーメンにありついた。

銀座は今や世界の一等地のひとつなのだが、栄枯盛衰は激しいようだ。特にレストランとアパレル業界の出入りが激しい。ニューヨーク5番街もそうだが昔ながらの老舗専門店が影を潜め高級ブランド店とグローバルチェーンのアパレル店が中心。それでもどっこい時代の波を乗り越えひっそり生き続けている老舗もある。しかしそうした老舗も再開発の名の下に地権者として新築ビル内で店舗を構えるなど風情は急速に変わりつつある。

最近私のようなぶらり人種、お仲間が増えたように感じる。スタイルと歩き方でなんとなくわかる。くわえ爪楊枝は破門だ。

年男72を迎えた。ビジネスランチはさようなら。黄昏ランチがもう少し続きそうだ。

